

私が子ども時代に出会った本—落合恵子
—この時代を生きる子どもと本と—

2013年4月21日(日)
国際子ども図書館ホール
講師：落合恵子氏

講演のあらまし

1. はじめに—子どもに積極的に関わることを選んだ一人として
2. 子どもの本専門店 クレヨンハウス—原点にあるのは「命」
3. 「自分を抱きしめてあげたい日に」から—「ある言葉、ある一行に支えられた瞬間」
 - ・ 『ルピナスさん：小さなおばあさんのお話』(バーバラ・クーニー さく、かけがわやすこ 訳)
 - ・ 『あたまにつまった石ころが』(キャロル・オーティス・ハースト 文、ジェイムズ・スティーブンソン 絵、千葉茂樹 訳)
 - ・ 『雪の写真家ベントレー』(ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン 作、メアリー・アゼアリアン 絵、千葉茂樹 訳)
 - ・ 「母音」(『新川和江詩集』新川和江著)
 - ・ 「公共」(『石垣りん詩集』石垣りん著)
 - ・ 『定本千鳥ヶ淵へ行きましたか：石川逸子詩集』(石川逸子著)
4. 母を介護していた日々に—その時読んだ本、その後出会った本
 - ・ 『アンジェール：ある犬の物語』(ガブリエル・バンサン 作)
 - ・ 『わすれられないおくりもの』(スーザン・パーレイ さく・え、小川仁央 やく)
 - ・ 『おやすみ、ぼく』(アンドリュー・ダッド 文、エマ・クエイ 絵、落合恵子 訳)
5. Hug & Read—まずもっと抱きしめる、それから本を読みましょう(東日本大震災の被災地で)
6. 「空より高く」—君の心よ高くなれ、君の心よ広くなれ、君の心よ深くなれ(岩手からの流れは福島の子どもたちへ)
7. リアルタイムに生きている子どもたちの今を見つめながら—まず平和でなくてはならない